

# はじめに

私たちが日々生活していくうえで、「ごみ問題」は避けては通れない課題のひとつです。ごみ焼却に伴う温室効果ガス(二酸化炭素等)の増大や、天然資源の枯渇等は、地球環境の問題であるとともに私たち人類の問題なのです。ごみを減らす＝「ごみ減量の取組み」は、環境への負荷を減らし循環型社会を築くための非常に重要な取組みです。

大阪市では、ごみ減量のため環境教育の推進や分別収集の充実など、今後ともより一層のごみ減量の取組みが求められています。

持続可能な「循環型都市」の構築に向けては、行政が率先してごみ減量を推進するとともに、市民・事業者の皆さんが自主的にごみ減量に取り組むことが大切です。

そうしたことから、平成14年8月に大阪市廃棄物減量等推進審議会からの答申を受け、「ごみ減量アクションプラン」を策定しました。

この冊子は、「ごみ減量アクションプラン」の市民、事業者、大阪市のごみ減量・3Rの推進のための行動メニューの中から、市民向けの行動メニューを、次の三つの生活場面ごとに分類して、例示しています。

- 買い物をするとき
- くらしのなかで
- いらなくなったものを活かすために

ご自身のこれまでのライフスタイルを見直すきっかけとしていただき、さらなるごみの減量につなげてください。



## ごみ減量化・資源の有効利用の取組みの基本的な考え方

**高**

↑

**3Rの優先順位**

↓

**低**

3つの頭文字をとって、**3R**(スリーアール)といいます

●循環型社会形成推進基本法におけるごみ処理の優先順位

<b>1</b>	<b>リデュース</b> Reduce (発生抑制)	まず、生産・流通・消費の各段階から、ごみの発生を抑制する取組みを行います。
<b>2</b>	<b>リユース</b> Reuse (再使用)	次に、リターナブルびんのようにそのまま使用できるものは何度も再使用しましょう。
<b>3</b>	<b>リサイクル</b> Recycle (再生利用)	そして、不用となったものは、原材料として利用するなどして、再生利用を進めることが大切です。
<b>4</b>	<b>熱回収</b> (サーマル・リサイクル)	資源として使えない場合は、燃やしてその熱を利用します。
<b>5</b>	<b>適正処分</b>	最終的にごみになるものは、適正に処分します。

最終的にごみになるものも、できるだけ環境に負荷を与えないよう適正に処分することが大切です

○発生するごみは、分別して「リサイクル(再生利用)」することはもちろん大切です。しかし、「リサイクル(再生利用)」よりも、まず、環境への負荷が低い「リデュース(発生抑制)」や「リユース(再使用)」をすることが大切です。

○「リサイクル(再生利用)」に重点を置きすぎるばかりに、「大量生産・大量消費・大量リサイクル」に陥り、結果としてかえって環境負荷を増すことのないよう、考慮する必要があります。

○市民・事業者・大阪市が、それぞれの責任を果たしつつ、パートナーシップのもとに、協働して日々の活動の中で、実際にごみ減量を推進できるような具体的な取組みを行うことが重要です。